

大阪市立
難波
特別支援学校

タイトル(テーマ)
iPadを使用した「時計」の学習 「とけいパズル」

難波 No 2 号
平成
27 年 2 月 23 日

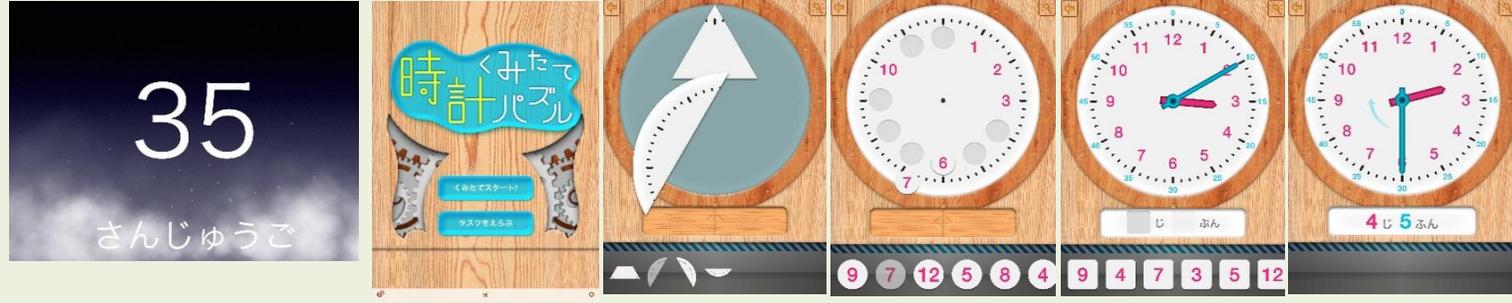
対象の児童生徒
高等 部 1 年

困り感
時計の学習には、長針・短針の弁別、文字盤の数字の配列等時計の仕組みの理解、60進法による数概念等、多くの内容が相互に関連しているため修得が難しい。



取り組みの内容・授業の様子等

- 導入の部分では、1～12まで、5とびの数唱を行なった。「KeyNote」は生徒達が興味を持てるような映像効果や好きなアニメの主題歌に合わせたのプレゼンテーションを提示することができる。グループ全体で声をそろえることで、数字が苦手な生徒も楽しみながら取り組むことができるようになった。
- 展開ではiPadのアプリ「とけいパズル」は5つのステップで時計を完成させる。それぞれのステップごとにレベルを設定することができるので、個人として取り組むだけでなく、各ステップごとに生徒が順に行うことでグループとしての取り組みにも有効であった。所要した時間によって、星印の数で評価ができるので、三ツ星(☆☆☆)を目指して必死に取り組む、見事達成すると全身を使って喜びを表現することも多く見られた。



成果と今後の課題
支援機器を活用した授業展開を検討してきたが、iPadを使用することが授業の中心になってしまっていた。紙や鉛筆を使うことを殆ど授業内容に含めなくなったため、鉛筆で数字を書くことの良さを生かし切れていなかった。日常的に見る時計とiPad上で表示される時計が別物になってしまっていた。針の色を変えたり、文字盤に数字を書くなどの工夫が必要であった。数学の授業は週2回しかなく、授業で取り組んだ内容が定着し、学校生活、家庭生活などに広がっていくためには、家庭等と連携をとった方策を検討していく必要がある。